

「東福寺地区バリアフリー移動等円滑化基本構想連絡会議」 ～鳥羽街道駅のバリアフリー化等に関する第3回連絡会議～

摘 録

日 時：平成31年3月6日（水）

午前10時から12時まで

場 所：東山区役所大会議室（3階）

1. 開会：京都市都市計画局歩くまち京都推進室土木技術担当部長 川越順二から挨拶

2. 議事

(1) バリアフリー化の概要（案）に対する市民意見募集の結果について

《会議資料》

資料1 鳥羽街道駅及びその周辺道路等のバリアフリー化の概要（案）に対する市民意見募集の結果について

参考資料 鳥羽街道駅及びその周辺道路等のバリアフリー化の概要（案）に対する市民意見募集について

《質疑応答》 ●：委員等からの御意見 △：事務局等からの回答

● 現在、鳥羽街道駅のホームのベンチはホームの壁際に線路と平行に設けられています。資料1のP.3のNO.15についてスペースがないため、困難と回答されています。座っている方が足を投げ出した場合、80cm程度の幅を占有しますが、椅子を線路と垂直に設けた場合は50cm程度の幅となりますので、こちらの方が良いのではないかと思います。

△ 利用者の皆様の円滑な動線を確保しながら、利便性も向上させていきたいと考えています。当社の他の駅で1人掛けの椅子を設置した事例はありますが、椅子を線路と垂直に設けた場合、座ることのできる人数が減ってしまうため、需要を見ながら検討したいと思います。

● 資料1のP.3のNO.18とP.4のNO.8について、駅員の配置を検討する一方で、駅員へお申し付けくださいとなっている。この2つが矛盾しているのではないかと思います。いかがでしょうか。

△ 駅員の配置についての回答について、車椅子を御利用の方が乗降する際には車両とホームとの間に渡し板を置く必要があり、駅員が対応しています。ただ、駅員がいない時間帯もあり、事前に連絡をいただく等の対応をしているため、このような回答にしています。

● 資料1のP.2のNO.6,7について、高齢化に伴い、手押し車の利用が増加してきており、スロープは非常に重要だと思います。こういった状況で、バリアフリーの基準が古いまま更新されていないのであれば、スロープの勾配などについてもっと配慮すべきではないでしょうか。

△ 勾配などのバリアフリーの基準については、国のガイドラインに定められています。これまでも利用者の方々の御意見などを踏まえて改訂されており、直近では昨年7月に改訂されています。

スロープの勾配の基準は改訂前と変わっていませんが、今回、鳥羽街道駅に整備するスロープについては、敷地条件を踏まえ、基準よりもできる限り緩やかな勾配で設計したいと考えています。

● 資料1のP.5のNO.5について、高松橋の勾配が13.5%ということで橋のたもとには車椅子用のスロープが設置されていますが、利用されているのを見たことはなく、おそらく誰かに押ししてもらわないと利用できないと思いますので、バリアフリーの基準を今後、見直す必要があるのではないかと思います。

△ 十条通と師団街道の交差点から高松橋への道路についてですが、バリアフリーガイドラインにしたがって、橋のたもとには、車椅子用のスロープが設置されています。但し、その先の疏水に架かる高松橋の勾配が急勾配となっているため、スロープが使用されていないという御指摘だと思います。高松橋と疏水の水面との高さ関係や、師団街道と十条通の交差点が近接しているため、勾配をこれ以上緩やかにできない状況です。したがって、十条通の南側については、今後、未利用地を活用し歩道の勾配を緩和するスロープを計画しています。

● 多機能トイレには様々な種類がありますが、今回はどの程度の整備を考えているのでしょうか。

△ 鳥羽街道駅が多機能トイレには、お湯の出るオストメイト用設備を設置するとともに、多機能ベッドを整備する予定です。また、一般トイレの洋式便器についても簡易型のオストメイト設備を設置する予定です。多機能トイレは、設置時期によって様々なタイプがあるのが実情ですが、当社としては、順次、トイレのリニューアルを進めているところです。

● 車椅子利用者の電車の乗降について、事前連絡が必要な事情は理解できますが、電車を利用する際に駅員が来るまで待つのが当たり前だという認識では困りますので、駅員の常時配置について検討していただきたいと思います。

前回の会議でも意見させていただきましたが、車椅子利用者が入れないようなトイレでは意味がありませんので、間口や広さについて十分な配慮や検討をお願いします。

● 個々にバリアフリー化を進めていくのも重要ですが、利用者の動線に着目してバリアフリー化を進めるのも重要だと思います。改札口やスロープはいいが、その間の動線が大変とか、そのようなことがないようにしていただければと思います。

(2)「東福寺地区(鳥羽街道エリア)バリアフリー移動等円滑化基本構想」(案)について

《会議資料》

資料2 「東福寺地区(鳥羽街道エリア)バリアフリー移動等円滑化基本構想」(案)

資料3 「東福寺地区(鳥羽街道エリア)バリアフリー移動等円滑化基本構想」(概要版)(案)

《質疑応答》●：委員等からの御意見 △：事務局等からの回答

- 鳥羽街道駅は無人になることもある駅でもありますので、電車の遅れや緊急時の情報を、電光掲示板だけではなく音声でも流していただきたいです。心のバリアフリーも大事ですので、当事者として鉄道事業者に協力できることがあれば協力したいと考えています。
- △ 非常時の御案内については、視覚障害者をはじめとした障害者の方だけでなく外国人の方々も含めてどういったことが有効かを考えていきたいと思えます。駅員がいない時間帯であっても遠隔操作で音声案内が可能ですので、鳥羽街道駅におきましてもこのような案内方法を含め考えていきたいと思えます。
- 駅を利用する際、駅員が不在の場合は困るので、駅員が無人となる時間帯が決まっているのであれば、それをあらかじめ周知していただけると助かります。
- △ 駅員のいない時間帯は駅員のシフトの状況で決まっていますので、そういったことも含め、検討させていただければと思えます。
- 資料2のP.24に生活関連経路がありますが、本町通については、中高校生で登下校時に混雑するので、小学生が遠回りで登下校しています。そこに自転車や自動車が通り危険となっています。十条通と伏見稻荷との間は二輪車通行禁止となったので効果が出て良くなりましたが、鳥羽街道駅から北へは混雑していて危ないです。秋の紅葉のシーズンはもっと混雑します。時間帯の通行規制等が考えられないでしょうか。
- △ 観光地での観光シーズンの混雑への対応については、関係行政機関が協力しながら土日を中心に交通対策を実施しています。通行規制については、地域の住民の方の同意が無ければ困難であり、また、一旦規制をかけると解除することが難しいため、十分な時間をかけて検討する必要があります。先ほどの本町通の話もかなりの時間がかかったと聞いており、今後の課題として進めていく必要があります。

(3) その他の御意見

- 鳥羽街道駅のように歴史のある駅は、整備するのに非常にお金がかかり大変だと思います。バスについてもノンステップバスと言っても乗降口に1ステップ残っています。ヨーロッパでは歩道の高さに乗降口の高さを合わせており、地下鉄でも段差がないため、障害者が介助無く乗降できます。将来的には介助なく1人で乗降できるようになると良いと思います。
- 東福寺駅のバリアフリー化が完了したとの話がありますが、エレベーターの乗り降りは大変です。あの大きさでは乗れない方もいると思います。いったん整備が完了しても検証し、改善し続けていくことが必要だと思います。
- 道路についても歩道を整備するスペースが無いところは歩行空間を明確化することになると思いますが、現地調査の際には、電柱が邪魔、勾配が急といった危険を感じました。色々難しいと思いますが、整備したらそれで終わりということでは

困ります。

- 駅や道路が利用できないと、障害者にとってはここに来ないで欲しいと言われていたような感覚があります。可能な限り改善いただきながら、さらに改善の余地があるのであれば継続して検討を進めていただければと思います。
- 日本の場合には、高齢化をはじめ社会の急激な変化の中で、短期間にバリアフリー化を進めてきたように思われます。ハード整備だけで難しいことについては、やはり心のバリアフリーなど人と人とのつながりが重要ではないかと思えます。
- 電車やバスの乗降の際のマナーについて、乗車のために並んで待っていると、お客さんが降りた後に乗車することを認識していない方が多いことが気になります。リュックサックを前にかける、必要な方に席を譲ることは啓発されていますが、乗降のマナーも周知していかないと、車内混雑やダイヤの乱れにつながると思えます。
- 一部の市バスの乗降ルールが3月から、後乗り前降りから前乗り後降りになりますが、おそらく混乱するのではないかと思います。アメリカでは、どちらの扉から乗っても良く、3枚扉の車輛もあります。バスのスムーズな運行ができないのは、乗降時の停滞や混乱に原因があると思えます。アメリカのようなシステムを参考にしたらどうかと思えます。
- 皆様から忌憚のない御意見をいただいたと感じています。最近では、共生社会又はインクルーシブな社会といったことを耳にします。今後は人々が望めば、可能な限り全ての人々が快適に利用や移動するような環境が求められると思えますが、そういったことが我々の最終目標だと思えます。バリアフリーやユニバーサルデザインは局所的な改善に留まらず、包括的により広い範囲で改善していくことが大事ではないかと思えます。今回の基本構想の策定をまず第一歩として、関係各位が事業を進めていくことが今後の取組だと考えますので、引き続き、皆様の御協力をお願いしたいと思います。
- 最近、公共交通の利用者でスマートフォンを見ている方が多く、視覚障害者がホームから転落したニュースを見ると、どうして周りの人が気付かずその方に声をかけられなかったのだろうかと思えます。スマートフォンではなく、少し周りを見ていただくだけで、視覚障害者の方がホームの端を歩いていることに気付くことができたのではと残念に思えます。最近、若者を中心に人と関わる事が苦手ということを聴きますが、地域や自分の住んでいる環境を良くしようとする場合、皆が関わって問題を解決することが必要です。バリアフリー化についても行政や関係機関などによるハード面の改善により良くなるはありますが、利用する私たちが心のバリアフリーを実践しながら過ごしていければもっと良くなると思えます。

3. 閉会

以上